

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2017年 3月 14日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部1
参加プログラム:	Building TOMODACHI Generation Morgan Stanley Ambassador Program	派遣先大学:	
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

主な活動場所はワシントンDCにあるWashington Center Headquarterで、数回ワシントン内でサイトビジットにも出かけた。ワシントンセンターは学生にインターンシップの場を提供する団体で、今回のプログラムでプロジェクトを共同で開発するアメリカ人学生も同団体のインターン派遣生であった。

参加した動機

まずはプログラムの主題である市民社会の可能性に興味があったから。日本ではなかなか十分に学べない内容であるため、市民社会がより発達しているアメリカで学ぶことは有意義になると思った。また、リーダーシップスキルやチームワークスキルなど今後のキャリア形成に役立つ力を集中的に鍛えることができる良い機会だと思ったから。さらにもともと英語でのディスカッションに苦手意識を抱いていたため、自分を強制的に英語で発言しなくてはならない場に置くことで克服したいと考えたから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

事務的手続きは基本アメリカの主催者側からメールで送られてくるのでそれを随時確認し対応すれば大丈夫

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ESTAの申請が必要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学指定のもの

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

英語でレクチャーが聞き取れ、質問できることが前提となっている。アメリカ人とのプロジェクトも当然ながら英語で行われるためスムーズに会話ができないと苦しい。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

主催者側からreading assignmentが大量にメールで配布される。レクチャーは資料に沿って進められていくのですべて読んでおくことが理想である。別にリーダーシップスキルやチームワークに関する事前アンケートも実施される。

## 学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

1週目は市民社会についての知識を取り入れることに重点が置かれ、基本的には9時頃から17時頃までワシントンセンターにてレクチャー、たまにサイトビジット、という形。レクチャーは3つのセクターから様々なゲストが講義に来てくださるため市民社会の理解を深めるだけでなく自らの見聞を広める面でも大変興味深い。質問の時間が十分にとられているので気になったことはほとんど質問し議論できる。2週目は自分自身のスキルアップとチームプロジェクトが始まる。スキルに関してはワークショップ形式で行われ、楽しみながら個人個人にあったスキルを身につけることができる。最終日にプロジェクトのプレゼンテーションが行われる。その他にはネットワーキングスキルの向上として各自名刺が配られ、レセプションの参加者や講義のゲストの方々とはネットワーキングの練習ができる。

②学習・研究面でのアドバイス

レクチャーに関してはせっかくの機会なので質問しないと勿体無い。チームプロジェクトに関してはアメリカ人学生が日中はインターンシップに参加しており、日本人も別のレクチャーやワークショップなどの予定が入っているため、どうしても夜に進めることになってしまう。特に最後の3、4日は連日夜中までかかるチームが多い。私のチームもプレゼンテーションの前日は徹夜であった。その分無事に終わった時の達成感はひとしおであるし、チームの団結力も高まる。

③語学面での苦労・アドバイス等

アメリカ人学生とはやはり言葉の壁を感じずにはいられなかった。プロジェクトを進めていくうちに本当に細かい部分に関して詰めていく作業はかなりの時間を要した。しかしアメリカ人学生は皆きちんと日本人の言いたいことを理解しようとしてくれる。語学面は前提条件として絶対に必要だし重要であるが、英語ができない、というのを日本人の欠点にするのではなく、英語がネイティブというのをアメリカ人のアドバンテージとして考え役割分担していくことも必要だと思う。

## 生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

ワシントンDC内のホテルに泊まった。部屋はキッチンやリビングもついた広めの部屋で快適だった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ホテルの食事は正直あまり美味しくはなかった。近くにスーパーがあるのでそこで食材を買って参加者同士自炊したりお惣菜を買ったり、外食したりした。昼食はワシントンセンターで出されるが時間が30分程度しかないのであまり食べられない。夜が遅くなってくると朝食を抜いてしまうこともあった。お金はあまり使うこともないが、夜街を歩く時や外でご飯を調達する時に若干必要。ホテルにATMもあるしカードもどこでも使える。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

特に心配は無し。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

保険、OSSMA、リーディングのコピー代、洗濯代、食費、お土産

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

常にコンダクターの二人が付いてくれる。学習面ではfaculty advisorがいるので安心。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

市民社会、cross-sector、cross-cultureなどプログラムの主題に関してはもちろん、とにかくインテンシブな2週間だったので全てを終えた時の達成感は大きな自信につながった。自分自身のキャリアについて考える良い機会であったし、他大学の学生と深く交流することも大変良い刺激になった。

②参加後の予定

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

おそらく1、2年生で参加するプログラムの中ではベストだと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。